

らね

LIBRARY NEWS

No.100

豊橋市 図書館だより

第100号 平成27年3月1日

〈編集・発行〉

豊橋市中央図書館

〒441-8025 豊橋市羽根井町48 TEL.0532(31)3131

豊橋市配本センター

〒440-0862 豊橋市向山大池町20-1 TEL.0532(62)2944

図書館ホームページアドレス

<http://www.library.toyohashi.aichi.jp>

メールアドレス

tosh@library.toyohashi.aichi.jp



ありがとう 第100号

図書館では、館報として昭和26(1951)年に「^{しょほ}書圃」を創刊してから、中央図書館が開館した昭和58(1983)年に「図書館ニュース」、第35号からは「図書館だより (LIBRARY NEWS)」とタイトルや形を変えて発行してきました。このような変遷を経て、図書館だよりは今号で第100号を迎えました。

来年度は大清水図書館の開館、配本センターの「向山図書館」改名など、豊橋市図書館は新たな一歩を踏み出します。これからも、豊橋市図書館と図書館だよりをよろしく願いいたします。

※今号の色は、大清水図書館のイメージカラーである藤色をイメージしました。

目次

- P.2 【特集】大清水図書館4月オープン!
- P.3 【特別連載】図書館100周年記念誌番外編③
- P.4 中央図書館一般図書コーナー本紹介
配本センターだより

公式ブログ&ツイッター好評配信中!

▼豊橋市図書館日記~library Diary~

<http://ameblo.jp/toyohashi-city-library/>



▼Twitter公式アカウント

<https://twitter.com/tosh07288312>



大清水町に地域図書館が誕生します！中央図書館が開館して以来、初の地域図書館となる大清水図書館。その館内の様子を特集します。



特集 大清水図書館

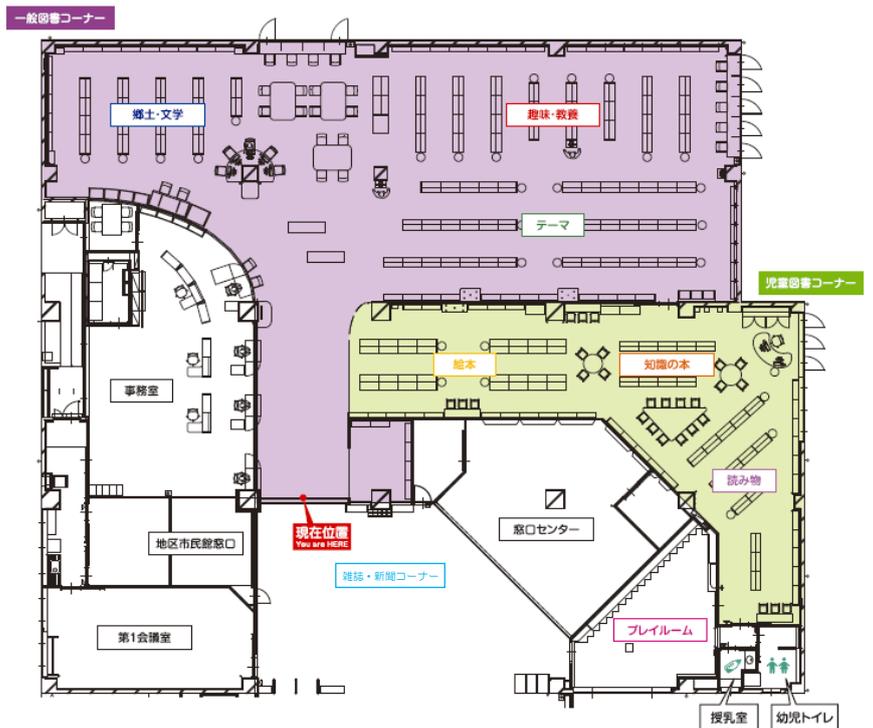
平成27年4月4日(土)オープン！

今年4月4日(土)に南稜地区市民館、大清水図書館、大清水窓口センターからなる複合施設「豊橋市大清水まなび交流館」(愛称「ミナクル」)がグランドオープンします。

大清水図書館は、図書が約7万冊収納できる規模で、くらしや旅行など、生活に関連するテーマごとに本を集めたテーマ本ゾーンや読み聞かせなどのイベントを行うプレイルームも備えた児童図書のゾーン、豊橋や大清水地区の資料が並ぶ郷土ゾーンなどそれぞれゾーンに分かれています。現在(3月1日)は書架(棚)の設置が終わり、選定した蔵書を書架に入れていく作業に行っています。

一般図書・テーマ本ゾーンは吹き抜けになっており、木を多く使った空間で快適な読書ができます。

図書館は知識と文化の宝島。みなさんにとっての新たな宝島となるよう、鋭意準備を進めています。開館をどうぞご期待ください。



開館時間：9時～21時
休館日：月曜、年末年始、館内整理日(原則第4金曜日)、特別整理期間



一般図書ゾーンとテーマ本ゾーン▼



えほんゾーン▲
書架は子どもの目線に合わせた高さになっている



図書館 100 周年記念誌番外編 ③

中村 光雄（元豊橋市図書館長・図書館 100 周年記念誌編集委員会委員）

図書購入支援活動

戦後間もない時代、新刊本はまだ品薄でしかも高価、一般市民の手には届きにくかった。そんな時代だからこそ、市民が読みたい本を入手する手伝いをし、読んだ本は図書館の蔵書として多くの人に利用してもらおうというユニークな奉仕、それを「希望読書会」と名付けて年に数回実施した。これは図書館単独ではなく、市の社会教育課との共同事業だったが、戦災後、焼けただれた街や人の心に、人間らしさを取り戻してもらおうとしたささやかな「図書購入支援活動」だった。

図書館法のもとで

新しく動き始めて間もない昭和 25（1950）年、図書館法が制定された。

この法律によって「公共図書館のやるべきこと」が見えてきた。豊橋の図書館が、手探りで始めて活動が間違っていないことも明らかになった。とはいえ、芽生えたばかりの奉仕が、本格的な奉仕活動に育つまでには、まだ少し時間が必要だった。

図書館法に基づいて、文部省が主催する職員の再教育が翌年から始まった。旧帝国大学での司書講習で、中部地方では名古屋大学で実施された。豊橋からも昭和 26（1951）年に 2 人、翌年から毎年 1 人が 2 か月間の講習を受けた。この講習はのち私立大学主催に変更されたが豊橋からの講習派遣はしばらく続けられた。そして、この講習で新しい図書館のあり方を学んだ職員が中心となって、さまざまな奉仕活動が展開され、受け継がれ、現在の図書館にみられる奉仕活動に育っていった。

最初は読書普及

読書が特別の人や学生のもんと思われていた時代、図書館には「暮らしの中に読書を取り込んでほしい」という願いがあった。当時、やるべき仕事の第一は読書普及だった。しかも組織的な読書活動だった。

この時代、戦後生活を立て直し、民主社会の構築が求められていたが、まだ食べることに精一杯、家にあっては古い家族制度意識が根強く残っており、一般社会人とりわけ主婦層にとっては、本を読むとか、図書館を利用するとかいうことは考えもつかない時代で、ようやく「生活改善」という運動が始まった時代であった。だから古い暮らしや古い考え方を変えていくことが必要だった。新しい図書館の奉仕活動はすべてここから始めねばならなかった。

豊橋では、まず出来ることとして巡回文庫^{※1} やそれを改良発展させた貸出文庫^{※2} を質・量ともに進化させた。そしてこの活動は市民の力を得て自動車文庫（移動図書館）へとつながっていった。

※1 巡回文庫…距離的・時間的に図書館を利用できない人・団体へのサービスのひとつで、図書を各校区へ一定期間で順番に回送していくもの。

※2 貸出文庫…周辺部に限らず、図書館に近い団体にも要望を受けた図書をまとめて貸し出すサービス。

【次回】読書運動が自動車文庫を生む。豊橋浜松読書交歓会。

中央図書館一般図書 コーナー本紹介

…「コーナー本」って??

みなさんは、「コーナー本」をご存知ですか？
中央図書館1階カウンターそばの書架で、毎月テーマをもって本を紹介する特集コーナーのことで、毎月頭をフル回転させて、利用者の皆さんにいろいろな本をご紹介すべく、テーマを考えています。膨大な蔵書の中から、みなさんと本をつないでいきたい、旬な出来事に関するものを手に取りやすく…担当が心をこめて、昨年にご紹介したテーマは以下のとおりです。
今まで目に留めてなかった方も、明日からはちょっと棚を覗いてみてはいかがでしょうか？予期しない面白い出会いがあるかもしれません。



さまざまなテーマを紹介しました

1	オリンピック特集/謎はすべて解けた!?
2	オリンピック特集/謎はすべて解けた!?
3	日本の技術は、素晴らしい。/こころのメンテナンスしませんか?
4	読書ははじめました/花を楽しむ
5	読書ははじめました/心ときめく図鑑
6	丸山薫と同年代の作家たち/W杯/水の未来について考えよう
7	世界遺産登録富岡製糸場/安野光雅
8	世界遺産登録富岡製糸場/安野光雅
9	自分探しのヒントを本から学ぼう/東海道新幹線開業50周年
10	東海道新幹線開業50周年/ゴジラ生誕60年
11	ゴジラ生誕60年/新年準備
12	新年準備/ぬくぬく～心と体が温まる本～

は～い!本!です! 配本センターだより

【平成27年4月～】

むかい やま と しょ かん
「向山図書館」
へと名称が変わります!!

こんにちは！豊橋市民文化会館内にある“配本センター”です。
この度、名称が「向山図書館」へと変わることとなりました。今まで長らく「配本センター」として多くのみなさんにご利用いただきましたこと…大変嬉しく思っています。
「配本センター」としてこの名称が誕生して以来、今日まで小さな小さな図書館として図書の貸出・返却はもちろんのこと、豊橋市内の地区・校区の市民館へと本を配る仕事を精一杯させていただいてきました。今後も業務内容は変わりませんが、さらにパワーアップした新たな気持ちで「向山図書館」として図書を通してみなさんのお役に立てるよう、職員一同、引き続き力を合わせていきたいと思っています。
そして、この「は～い!本!です!配本センターだより」も次号から「向山からこ・ん・に・ち・は!向山図書館だより」として、その時々の様子をみなさんにお届けしていく予定です。
冬から春へ…移りゆく季節と共に、新年度へむけてのイベントや行事の関連本、また新たな特設コーナーなどもご用意しながら、楽しく足を運んで頂けるようお待ちしております。
今後とも「配本センター」改め「向山図書館」を、どうぞよろしくお願いいたします。

<特設コーナーのお知らせ>

児童書：テーマ「お家あそびと公園」（1月～3月末まで）

一般書：テーマ「海賊」（3月～5月末まで）



小ぢんまりとした空間ならではのゆったりとした時間が流れます。